北部病院だより　第95号

第 95 号【2016 年度特別 4・5 月合併号】
発行元：昭和大学横浜市北部病院

●巻頭言　『新任のご挨拶』
●地域医療連携室
●栄養科
●定年退職者のご挨拶
●ご紹介
●医師の配属・異動・退職、診療統計
●患者さんからのご意見・ご要望
●ＴＯＰＩＣＳ
●患者さんへのお知らせ

当院では熊本地震の被災地の皆様への支援のため（日本赤十字社を通し）、「熊本地震災害義援金」を募っております。1 日も早い復興をお祈り申し上げます。

巻頭言　『新任のご挨拶』

副院長
門倉　光隆

本年 4 月 1 日付けで副院長・呼吸器センター長（教授）として着任いたしました。よろしくお願い申し上げます。なお、当院は 2001 年 4 月 1 日に昭和大学で 8 番目の新規附属病院として開院しましたが、その際、総合医局長ならびに呼吸器センター外科診療責任者（助教授）として立ち上げに奔走したのがつい昨日のようであります。

開院当時、電子カルテを導入した病院は全国でも極めて少なく、“紙カルテのない大学病院”として希有な存在でありました。今や電子カルテは全国であたり前となりましたが、その導入によって不必要となるカルテ庫やエックス線フィルム保管庫の有効利用だけでなく、電子カルテ画面の作り込み、カルテ入力や関係書類の運用、データ保管や周辺機器とのインターフェース、さらに、コンピューターに不具合が生じた際の対応策検討など、文明の利器を使用するにも「未知との遭遇」さながらであり、開院前日までリハーサルを何度繰り返しても問題が山積し、気の休まる時が無かったことを思い出しております。なお、開院は日曜日であったため、来院は救急患者さんだけでありましたが、それでもひとたび入院となれば、患者さん対応だけでなく、電子カルテや院内ルールへの対応で病棟は大騒ぎとなっておりました。

総合医局は当時から中央棟 9 階に位置し、夜にはセンター北の観覧車がライトアップされた様子を垣間見ながら電子カルテと格闘しておりました。その電子カルテも導入から 15 年が過ぎ、入れ替えの時期も近いと聞いております。コンピューターだから「こんな事も、あんな事もできますよね」「どうしてこれができないのですか」などといったセリフを時折耳にしますが、電子カルテは“使うヒトの心意気ひとつ”で敵にも味方にもなり得ることを胸に秘め、活用したいと思います。

2001 年の開院時、呼吸器センターは内科医 4 名と外科医 2 名、計 6 名でスタートしましたが、現在では内科医 10 名、外科医 7 名、計 17 名となり、呼吸器外科の年間手術症例数も初年度 51 例であったものが、今では年間 250 例を超えております。また、全診療科を合わせて 120 名であった医師数も、開院 15 年が過ぎ 200 名以上となりました。こうなってきますと、顔と名前が一致しない他科医師も多数出てまいります。また、看護師約 680 名を含めたメディカルスタッフ 1000 名、全てを把握することは困難であります。この場をお借りしてお詫びしたいと思います。

地域医師会、さらに関連施設や団体の方々とのコミュニケーションをどのように構築し、好ましい関係を維持・拡大できるか、地域住民の方々に対してどのように還元し、さらに、それをいかに継続できるかなど日々考えることが地域中核病院としての重要な役割であると考えております。今後とも一層のご指導ご協力をお願い申し上げます。

地域医療連携室

私たち地域医療連携室の業務は、医療機関との連携をはじめ、「横浜市の地域中核病院」である北部病院が急性期医療の発揮ができるよう、地域医療機関・病院・福祉保健・行政・地域住民の方などと連携協力し合いながら、様々な業務や活動を行っています。

地域医療連携室　依田　透　室長（よりた　とおる）

はじめまして、このたび４月１日から地域医療連携室長に就任しました。

市民の皆さんが安心して当院を受診していただけるように、また地域医療機関等との信頼関係を構築していけるように努力してまいりますので、今後とも地域医療連携室に対するご支援ご協力をお願いいたします。

地域医療連携室スタッフ

≪業務内容の紹介≫

- 地域医療機関からの紹介患者の診療予約
- CT, MRI, PET/CT　などの検査予約
- 当日緊急の受診依頼への対応
- 紹介元医療機関への来院報告等の返書管理
- ｾｶﾝﾄﾞｵﾋﾟﾆｵﾝ、緩和ケア外来等の案内
- 地域とのネットワークづくり
- 地域医療機関との組織的連携のための運営
- 病院広報活動　　など

当院では、２人主治医制を推奨しています。

当院へ受診する際には、かかりつけ医からの紹介状の持参をお願いしております。

症状が落ち着いた(安定された)患者さんにつきましては、紹介元である「かかりつけ医」の先生へ、ご紹介させて頂きます。また、「かかりつけ医」がいない方は、ご一緒にお探しいたしますので、ご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

※2 人主治医制：患者さん一人に対し、「地域のかかりつけ医」と「当院の医師」が互いに連携しながら共同で継続的に治療を行うことです。

医療機関からの問い合わせ･予約等

ご予約・受診に関するお問い合わせは地域医療連携室にご連絡ください。

TEL:045-949-7151（Fax:045-949-7287）医療機関専用

平日：8 時～17 時、土曜：8 時～13 時

緊急診療・転院（入院治療）が必要な方も、上記電話番号にご連絡ください。

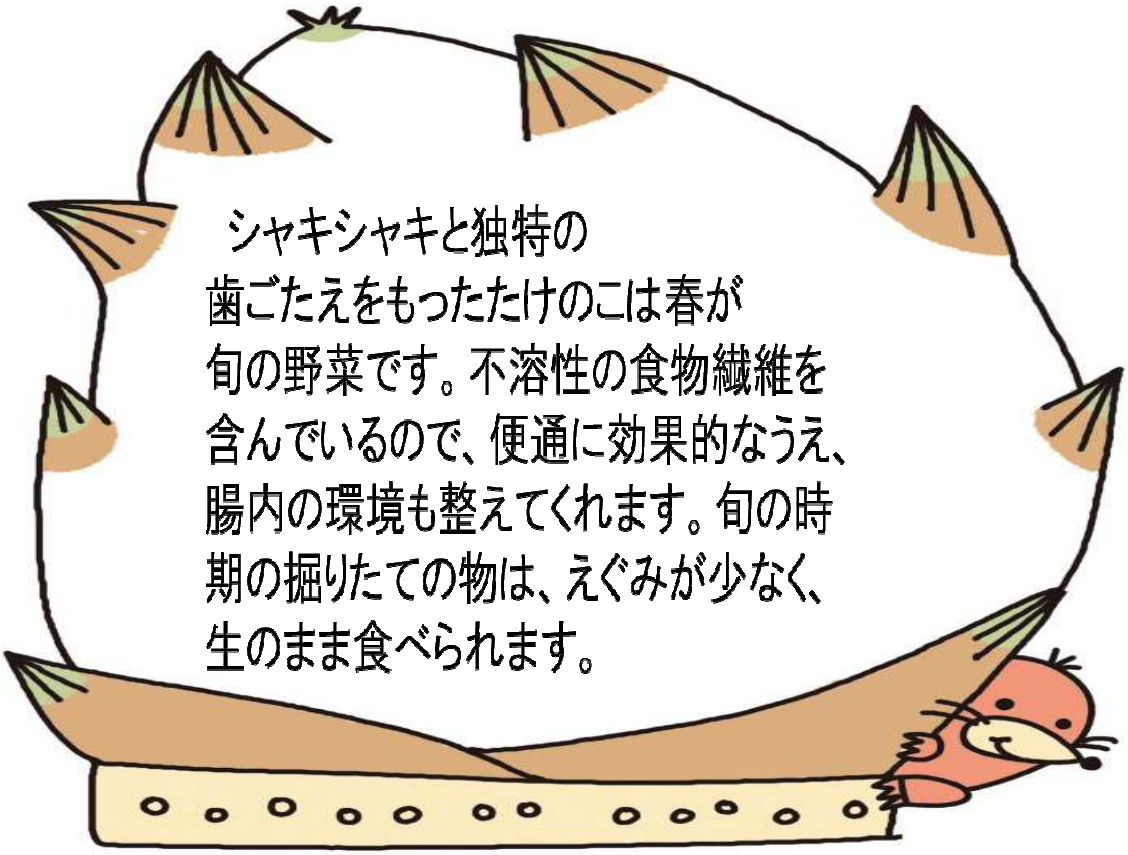
当番医師に迅速に繋ぎ、受入可否の判断をいたします

患者さんからのご予約

紹介患者さん専用ダイヤルを設けていますので、以下の番号にご連絡ください。

TEL:045-949-7143（患者さん専用）　　平日：9 時～17 時

栄養科より



★栄養科の取り組み～異物混入の防止～

髪の毛などの異物が混入しないように
するために「ローラー掛け」を行って
います。
帽子、エプロン、作業着など、
厨房に入る前や盛り付ける前など、
決まった時間にみんなで声を掛け合い、
背中など見えにくいところは従業員同士
で行っています。

定年退職者のご挨拶

◇呼吸器ｾﾝﾀｰ　鈴木　隆◇

私が昭和大学横浜市北部病院呼吸器センターへ奉職したのは 2011 年 2 月 1 日で、その翌月にあの東日本大震災がありました。この 2016 年 3 月で 5 年 2 ヶ月にわたる北部病院勤務を定年となりました。その前の昭和大学藤が丘病院を含ると昭和大学には 29 年勤務させていただきました。感謝に堪えません。

勤務していた呼吸器センターは呼吸器内科と呼吸器外科で構成されており幅広い領域を担当しています。悪性腫瘍、感染症、閉塞性肺疾患、間質性肺炎、気胸、縦隔疾患、胸膜疾患、胸部外傷、interventional pulmonology（気道ステント、膿胸の胸腔鏡治療など）、緩和ケア、等々を診ています。スタッフは朝早くから夜遅くまで、場合によっては夜も寝ずに診療を行っています。このモチベーションの高さは驚異です。それが今後も維持されることを念じてやみません。そのためにはスタッフの個々の研鑽と相互の協力は欠かせませんが、スタッフを取り巻く環境をこのモチベーションを壊さないように維持していくことが必要と考えます。そのことを心残りにして北部病院を去りますが、私の 5 年 2 ヶ月の勤務を見守っていただいた方々に深く感謝申し上げます。

◇放射線科　櫛橋　民生◇

昭和大学医学部を卒業し、医学研究科病理系第二薬理学大学院修了後、昭和大学放射線科に入局しました。2001 年 4 月 1 日には昭和大学横浜市北部病院放射線科診療責任者として就任し、15 年歩み続けてきました。やはり北部病院放射線科の思い出には強いものがあります。

基本は“患者さんの時間を盗むな”をモットーとし、診療放射線技師、看護師の協力のもと、特に残り時間の少ない方もおられる患者さんを長く待たせることでの時間を盗まないことを心がけてきました。また、完全フィルムレス、ペーパーレス病院となったことも時間短縮の大きな要因でした。世界一と言われるフル PACS 作製を許可して下さった大学当局に大変感謝しております。なるべく多くの画像を限られた人数で、短時間で読影するぞという気概は、この世界一の PACS に大きく依存していることは間違いありません。多くの企業が検査機器、PACS、モニター等の開発を手がけることにより、画像診断学も進歩し続けるでしょうが、やはり気持ちのあり方が重要です。北部病院がさらに大きく発展することを祈っております。何よりも一緒に頑張って下さった医局員一同、秘書さんに大変感謝致します。

◇こどもｾﾝﾀｰ　北澤　重孝◇

都筑中央公園の桜が昭和大学横浜市北部病院開院後 16 回目の満開を誇っています。私この 3 月で定年退職となり、６月より埼玉県新座市で地域小児科医療に微力ながら貢献しようと診療所を開院します。北部病院開院時　黒川元院長の病院の理念「心こもる、無事故の、高度の医療」を読み返しますとまさしく今最も求められている病院像であります。

院長からもう一つ私にお話がありました。それはフロンティアを目指しなさいとの言葉でした。先天性軟骨無形成症の骨延長術　イリザロフ手術を例にあげられ、マニュアル化したところからはこのような新しいものは出てこない、とのお話でした。安全な医療を求めての平準化とフロンティアを求めての試行錯誤。相反するようなこの二つのキーワードが重要なのだと思います。

多くの皆様に支えられての 15 年、誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

ご紹介

◆循環器センター　南淵　明宏◆

昨年 11 月から心臓外科手術を担当させていただいております。

さて私は今まで私は民間の専門病院で長らく手術に明け暮れる毎日を過ごしてきました。赴任して半年、皆様のお気使いで「没頭させて頂いている」毎日ですが、あらためて専門病院にない、大学病院の底力を実感しております。

大学病院のパワー！その最たるものはやはり若さです。未来ある若い世代の輝いた目線にさらされるだけで inspire されます。（inspire とは精気みなぎる気持ちにさせていただくという意味です。）彼らの瞳の奥には未来の世界が垣間見えるのです。彼らと接しているだけで本当にワクワクさせられます。

人は常に未来を見据えて生きるものだと思います。そして人が世に成す所作はすべからく、係る人の未来を担っています。医療もその典型で、患者さんの未来を造る仕事です。この大きな建物に集うことで、皆さんはそれぞれの未来に出会います。そう思うとよけいにワクワクしてきました。

◆外科　西川　徹◆

当院では開院以来、乳がん治療は外科において手術、化学療法を担当してきました。しかし、近年は乳腺外科や乳腺内分泌外科といった診療科が増加してきており、より専門性を高めたスタッフを中心とした診療が行われるようになっております。

当科では 2013 年よりスタッフの異動などにて乳がん診療は非常勤医師が担当しておりましたが、2015 年 4 月より私が外科へ赴任し乳腺外科、甲状腺外科を中心とした診療を担当させていただいております。特に乳腺外科領域においては前職場が大学病院における乳がん治療を国内で最も多く担当していたこともあり、常に最新の治療法のもとで多数の患者さんと関わってきました。

乳がん治療は外科医が一人で完結できることではありません。当院では乳腺外科医、腫瘍内科医、外来および担当病棟看護師、化学療法室看護師、化学療法担当薬剤師などによる定期的な他職種ミーティングを開催しております。進行がんや再発などにより治療が長期化する方や、多くの合併症を抱える方などの治療についてチームで関わっております。当院での乳がん治療を安心して受けていただくために、スタッフ一丸となってサポートさせていただきたいと考えておりますので気軽にご相談下さい。

◆看護部　立川　京子◆

私は平成 28 年 4 月 1 日より、昭和大学横浜市北部病院看護部長を拝命いたしました。どうぞよろしくお願い致します。

北部病院看護部の理念は、北部病院で看護を受けられる人に「最良（BEST）の結果をもたらすために最善（BEST）を尽くします」としています。外来にいらした患者さんや入院されている患者さんが、健康の回復や増進・苦痛の緩和ができ、生活の質の回復や向上ができるよう援助することを目指しています。そのため昨年来、入院早期から患者さんやご家族が安心して社会復帰ができるよう退院支援を強化し、患者さんのニーズに応えるための産褥ショートステイや術前外来を開始しています。また、地域の皆さんに貢献できるよう、認知症外来・ストマ外来だけでなく、認定看護師を中心とした活動も強化していきたいと考えています。

現在、看護部には約 700 名の看護職員が在籍しています。毎年のことながら、4 月は人事異動の時期で、今年は新卒新人看護師 96 名と、既卒新人職員 6 名、合わせて 102 名の新入職員を迎えました。新卒新人は左肩に「新人バッジ」をつけ、1 年間で、指導を受けながら安全に看護が提供できることを目標に努力していきます。全職員で新人の育成を支援しながら、患者さんやご家族の皆さんに安全で安心な看護を提供できるよう、皆さんのご意見やご要望を伺いながら、全力を尽くして参りますので、よろしくお願い致します。

医師の配属・異動・退職

異動　退職医師

2016 年 3 月～4 月

【附属施設へ】

・ 伊藤　亮太　（整形外科　⇒ 江東豊洲病院　整形外科）
・ 島津　玲奈　（麻酔科　⇒ 藤が丘病院　麻酔科）
・ 肥田　典子　（呼吸器ｾﾝﾀｰ　⇒ 医学部薬理学臨床薬理学部門）
・ 金野　竜太　（内科　⇒ 大学病院　神経内科）
・ 國井　紀彦　（脳神経外科　⇒ 大学病院　脳神経外科）
・ 水越　曜子　（こどもｾﾝﾀｰ　⇒ 江東豊洲病院　こどもｾﾝﾀｰ）
・ 笠井　英世　（内科　⇒ 藤が丘病院　脳神経内科）
・ 小川　浩史　（ﾒﾝﾀﾙｹｱｾﾝﾀｰ　⇒ 藤が丘病院　精神神経科）
・ 黒川　信二　（内科　⇒ 藤が丘病院　脳神経内科）
・ 齋藤　秀嘉　（こどもｾﾝﾀｰ　⇒ 藤が丘病院　小児科）
・ 湯浅　研　（歯科・口腔外科　⇒ 歯科病院）
・ 関川　高志　（内科　⇒ 藤が丘病院　腫瘍内科・緩和医療科）

【学外研修】

・ 久行　友和　（消化器ｾﾝﾀｰ）
・ 小形　典之　（消化器ｾﾝﾀｰ）
・ 矢川　裕介　（消化器ｾﾝﾀｰ）
・ 鈴木　謙一　（消化器ｾﾝﾀｰ）
・ 和田　尚人　（消化器ｾﾝﾀｰ）
・ 小川　正隆　（消化器ｾﾝﾀｰ）
・ 加賀　浩之　（消化器ｾﾝﾀｰ）
・ 齋藤　佳範　（内科）
・ 白子　春菜　（整形外科）
・ 安田　健作　（眼科）
・ 山本　理絵子　（麻酔科）
・ 釈尾　知春　（麻酔科）

【退職】

・ 鈴木　隆　（呼吸器ｾﾝﾀｰ）
・ 櫛橋　民生　（放射線科）
・ 船木　翔　（放射線科）
・ 新谷　紀子　（放射線科）
・ 北澤　重孝　（こどもｾﾝﾀｰ）
・ 新井　真衣　（こどもｾﾝﾀｰ）
・ 中神　智和　（こどもｾﾝﾀｰ）
・ 星本　剛一　（心臓血管ｶﾃｰﾃﾙ室）
・ 藥師寺　忠幸　（心臓血管ｶﾃｰﾃﾙ室）
・ 藤本　一途　（循環器ｾﾝﾀｰ）
・ 山本　泰漢　（内科）
・ 古市　州郎　（整形外科）
・ 石原　陽平　（整形外科）
・ 松久　孝行　（整形外科）
・ 大橋　傑　（整形外科）
・ 長崎　理佳　（歯科・歯科口腔外科）
・ 児玉　健太　（消化器ｾﾝﾀｰ）
・ 迫　智也　（消化器ｾﾝﾀｰ）
・ 深見　裕一　（消化器ｾﾝﾀｰ）
・ 安藤　直子　（産婦人科）
・ 小口　理英　（麻酔科）

新規配属医師

2016 年 3 月～4 月

【新規採用】

・佐々木　赳	（循環器ｾﾝﾀｰ）	金沢大学	平成 20 年卒
・佐藤　良平	（緩和医療科）	新潟大学	平成 18 年卒
・藤井　崇	（消化器ｾﾝﾀｰ）	日本医科大学	平成 18 年卒
・松本　航	（消化器ｾﾝﾀｰ）	杏林大学	平成 22 年卒
・寺澤　厚志	（循環器ｾﾝﾀｰ）	岐阜大学	平成 18 年卒
・平沼　進	（循環器ｾﾝﾀｰ）	北里大学	平成 16 年卒
・牧野　麻美	（麻酔科）	新潟大学	平成 26 年卒
・清水　裕樹	（内科）	昭和大学病院大学院	平成 19 年卒

【附属施設より】

・門倉　光隆	（呼吸器ｾﾝﾀｰ）	昭和大学病院　呼吸器外科より
・石垣　征一郎	（内科）	昭和大学病院　神経内科より
・友寄　英士	（眼科）	東病院　眼科より
・新妻　学	（整形外科）	昭和大学病院　整形外科より
・西　正智	（整形外科）	昭和大学病院　整形外科より
・山口　千尋	（麻酔科）	昭和大学病院　麻酔科より
・大山　伸雄	（こどもｾﾝﾀｰ）	昭和大学病院　小児科より
・入江　亮	（脳神経外科）	昭和大学病院　脳神経外科より
・山口　摩佑子	（産婦人科）	昭和大学病院　産婦人科より
・菊池　優	（ﾒﾝﾀﾙｹｱｾﾝﾀｰ）	藤が丘病院　精神神経科より
・安藤　茜	（麻酔科）	歯学部歯科麻酔科より
・今野　歩	（麻酔科）	歯学部歯科麻酔科より
・内山　正信	（内科）	東病院　神経内科より
・沖野　和麿	（ﾒﾝﾀﾙｹｱｾﾝﾀｰ）	昭和大学病院　臨床病理診断科より
・伊藤　千洋	（歯科・口腔外科）	歯科病院より
・加藤　光佑	（歯科・口腔外科）	歯科病院より

【内科研修医より】

・酒井　翔吾	（呼吸器ｾﾝﾀｰ）	昭和大学	平成 25 年卒
・大山　祐司	（心臓血管ｶﾃｰﾃﾙ室）	昭和大学	平成 25 年卒

新規配属医師

2016 年 3 月～4 月

【内科研修医】

・ 小倉　庸平　　東京医科大学卒

【平成 28 年度採用臨床研修医】

・ 飛鳥井　邑	東京女子医科大学	・ 髙階　祐輝	昭和大学	・ 日比　裕之	昭和大学
・ 天野　貴司	昭和大学	・ 瀧島　弘康	昭和大学	・ 宮本　庸平	昭和大学
・ 甘利　泰伸	昭和大学	・ 田平　剛士	昭和大学	・ 吉田　輝龍	昭和大学
・ 金井　貴宏	昭和大学	・ 張　和美	金沢医科大学	・ 和田　紗矢香	昭和大学
・ 金古　政隆	岩手医科大学	・ 対馬　杏奈	帝京大学	・ 唐渡　諒	昭和大学
・ 木佐貫　祐揮	昭和大学	・ 永田　衣利奈	昭和大学	・ 福永　奈津	昭和大学
・ 栗原　亜梨沙	北里大学	・ 中村　圭佑	山口大学	・ 八木　直美	昭和大学
・ 島崎　咲	島根大学	・ 久野　瑞貴	昭和大学	・ 山岡　大志郎	昭和大学

【配置転換】

・ 雨宮　妃	（救急ｾﾝﾀｰ　⇒　心臓血管ｶﾃｰﾃﾙ室）	・ 松坂　貫太郎	（内科　⇒　救急ｾﾝﾀｰ）
・ 林　武雅	（救急ｾﾝﾀｰ　⇒　消化器ｾﾝﾀｰ）	・ 渡部　真裕子	（消化器ｾﾝﾀｰ　⇒　救急ｾﾝﾀｰ）
・ 黒田　佑介	（救急ｾﾝﾀｰ　⇒　呼吸器ｾﾝﾀｰ）	・ 山﨑　武士	（循環器ｾﾝﾀｰ　⇒　こどもｾﾝﾀｰ）

【学外研修・国内留学終了】

・ 石垣　智之	（消化器ｾﾝﾀｰ）	・ 加藤　雅典	（内科）
・ 中村　大樹	（消化器ｾﾝﾀｰ）	・ 佐野　文俊	（呼吸器ｾﾝﾀｰ）
・ 加藤　一樹	（消化器ｾﾝﾀｰ）	・ 藤﨑　恭子	（呼吸器ｾﾝﾀｰ）
・ 五十嵐　健太	（消化器ｾﾝﾀｰ）	・ 丹澤　盛	（呼吸器ｾﾝﾀｰ）
・ 桜井　達也	（消化器ｾﾝﾀｰ）		

診療統計

2016 年 2 月～3 月統計データ( )内は 1 日平均

診療実日数 2 月（入院：29 日・外来：24 日）、3 月（入院：31 日・外来：26 日）

	外来患者数	入院患者数	救急搬送数	手術件数
2 月	27,474 人(1,144.8 人)	17,342 人(598.0 人)	397 件(13.7 件)	720 件(36.0 件)
3 月	29,880 人(1,149.2 人)	18,473 人(595.9 人)	412 件(13.3 件)	804 件(36.5 件)

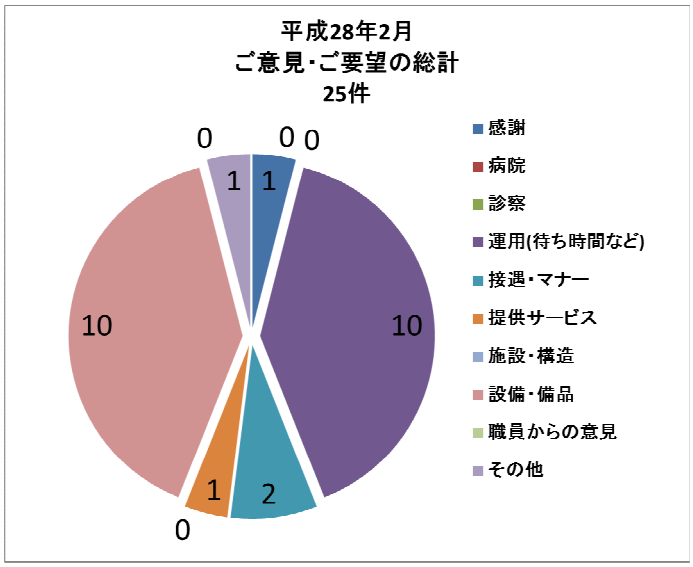
患者さんからのご意見･ご要望

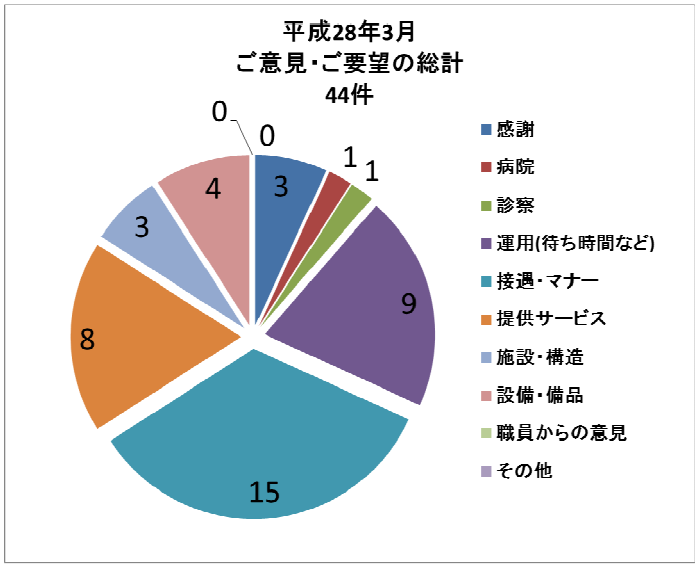
日々患者さんより頂きましたご意見･ご要望に関しましては、関連する部署の責任者に報告し改善に努めております。

今までのご意見の中で多くいただいたものや最近多くいただくご意見･ご要望を中心に改善策を掲載させて頂きました。掲載されていない内容についても対応しておりますのでご了承ください。

今後もお気付きの点やご要望をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。

ご意見・ご要望	回答・改善等
＜運用（待ち時間など）について＞ 入退院の手際が毎回悪い。入院の時間に間に合うように手続きしているのに、なぜベッドが空くまで待たされなければいけないのか。	今年の２、３月につきましては、入院患者さんが例年より多く、当日退院されたベッドに入院していただくケースが多くございましたので、お待ちいただくことが多くなってしまいました。 現在、入院時間を午前１０時から午前１１時・午後２時に変更できないか検討中です。
＜接遇について＞ 入院中に外来を受診する際、いつ呼ばれるのか分からないと看護師に言われたが、どうにかならないものか。	ご意見にもありますように、入院中の外来受診の場合、外来の状況や医師の都合により時間の変更を余儀なくされることがございます。しかし、大抵の場合は予め診療予約時間が決まっておりますので、その時間をお伝えしたうえで変更の可能性がある旨をご説明するよう、スタッフ内で共有いたします。
＜設備について＞ 院内の自動販売機の内容の見直しを行ってほしい。	デイルームの自動販売機に関しては、お薬を飲まれる患者さんのために飲料水を多く設置しております。その他の種類をご希望の場合は、お手数をお掛けいたしますが中央棟１階の売店をご利用ください。また病棟においては移動販売も実施しておりますので、ご利用いただきますようお願いいたします。





TOPICS

横浜マラソンに参加しました。

2016 年 3 月 13 日に「横浜マラソン 2016」が開催されました。神奈川県内の主だった病院から救護ボランティアとして、医療スタッフ（横浜市北部病院からは、医師１名・看護師２名）が参加しました。横浜マラソンは、けがや心肺停止等の重篤な患者が発生する確率の詳細なデータを持っており、それに基づいて医療スタッフ・ボランティアをコース上にくまなく配置しているため、全国のマラソン大会の中でも最も手厚い大会と言われています。当日は、救急搬送された方が数名いたようですが、心肺蘇生を施すような重篤な患者が発生せず、無事に大会を終えられ安堵しました。次回は 2017 年 11 月に行われます。エントリーしてみてはいかがでしょうか。

第15回　国際消化器内視鏡ｾﾐﾅｰが開催されました。

2016 年は 3 月 12 ～13 日の 2 日間、昭和大学横浜市北部病院消化器ｾﾝﾀｰで行われる内視鏡ﾗｲﾌﾞと新横浜ﾌﾟﾘﾝｽﾎﾃﾙを中継しての第 15 回国際消化器内視鏡ｾﾐﾅｰが開催されました。国内から 367 名、海外からは 16 名にご参加いただきました。内視鏡治療は EMR,ESD,EST,EUS-FNA など最新の方法が用いられ、23 名の患者さんにご協力いただきました。

外国人ﾌｧｶﾙﾃｨとして、世界的に著名な Amyn Haji 外科部長（英国・ﾛﾝﾄﾞﾝ、King’s College Hospital)、David L. Carr-Lock 教授(米国、ﾆｭｰﾖｰｸ、Mount Sini Beth Israel Medical Center)、Norio Fukami 教授(米国・ｱﾘｿﾞﾅ、Mayo Clinic)以上 3 名にお願い致しました。一方、国内からのﾌｧｶﾙﾃｨは現在世界的に活躍している日本消化器内視鏡学会のﾘｰﾀﾞｰである 14 名が務め、麻酔指導には当院病院長の世良田和幸、同教授の小坂誠 等が務めました。

本ﾗｲﾌﾞは質の高い、安全で、scientific なﾗｲﾌﾞとして世界 3 大ﾗｲﾌﾞの一つとみなされ、国内外でその高い教育的効果が注目を集めています。本ﾗｲﾌﾞの共催団体である日本内視鏡学会からは当ﾗｲﾌﾞ出席者へ専門医・指導医の学会単位が付与され、世界内視鏡学会（WEO：World Endoscopy Organization）は昭和大学横浜市北部病院消化器ｾﾝﾀｰを Center of Excellence（内視鏡 優良認定施設）として、日本国内唯一の認定施設に指定しています。これとともに昭和大学の消化器領域における世界的声望も一層定着してきました。

TOPICS

ロビーコンサートを開催しました。

平成 28 年 3 月 24 日（木）と 4 月 26 日（火）にロビーコンサートを開催しました。3 月は大学生の二瓶咲愛さんによるピアノ演奏、4 月は鳥羽山美和さんのピアノ伴奏に合わせた清水寿子さんの歌をお届けいたしました。演奏グループ「LUNA」の皆さんのピアノ・フルート・歌による合奏をお届けいたしました。

3 月のプログラムは、クラシックから J-POP にまで及ぶ幅広いもので、短い時間で多様なプログラムをお楽しみいただきました。

4 月のプログラムにおいても幅広いプログラムをお楽しみいただき、唱歌のような親しみ深い曲では、観客の皆さんも一緒に口ずさんだり合いの手を入れたりして楽しんでいらっしゃっている様子が見ら

《今後の開催予定》
- 平成 28 年 5 月 27 日（金）　ピアノ
- 平成 28 年 6 月 27 日（月）　ピアノ
- 平成 28 年 7 月 22 日（金）　ピアノ＆フルート

第6回北部医学会を開催いたしました。

第 6 回北部医学会が平成 28 年 3 月 19 日（土）に開催されました。

北部医学会とは職員間の協働・連携を図り、チーム医療の活性化を目的とした院内学会です。今回は 40 演題に 150 人近くの職員が参加、互いの研究や業務改善の成果を発表しました。その後パネルは中央棟 1 階に展示され、来院された皆さんにもご覧いただきました。

表彰された演題は以下のとおりでした。

・院長特別賞

「当院における摂食嚥下障害患者に対しての口腔機能評価を通した歯科介入と多職種連携について」

（歯科　湯浅 研　助教）

・学術奨励賞（病院運営委員会委員による投票）

「当院における術後悪心・嘔吐の実態調査」　（麻酔科　齊田 瑠加　助教）

・最優秀演題賞（参加者による投票）

「新規腸管洗浄剤における内服量と洗浄効果の検討」　（内視鏡室　加茂 初美　看護師）

患者さんへのお知らせ

患者サロンの日程が決まりました。

当院の患者サロンの愛称は、がん患者サロン「きぼう」です。
サロンのイメージフラワーは、花言葉『希望』を示すガーベラです。
集った仲間で、当事者同士でしか話せないこと、分かり合えない
気持ちなど、心の内を語り合いませんか？

日時：毎月第３木曜日　14 時～16 時
内容：ミニレクチャー＆交流会（２部構成）
詳細は院内掲示板またはデイルームに掲示して
あります〈がん患者サロンのご案内〉をご覧ください。
皆様のご参加をお待ちしています！

昭和大学横浜市北部病院
がん患者サロン『きぼう』

がん患者さん、がん患者さんのご家族を対象に患者サロンを開催しています。院外の患者さん、ご家族も参加いただけます。事前の登録が必要です。1階総合相談センターへお越しください。

平成28年度 ミニレクチャー予定表

場所：9階会議室（当日、案内を出しています。）
日時：第3木曜日（14:00～14:40）
＊ミニレクチャー後は、交流会を行います。

日程	テーマ	担当者
4月21日	もしも、がんと言われたら －心がけておきたいこと－	がん相談支援センター看護師
5月19日	がんと社会資源、医療費について 就労支援（神奈川県モデル事業）	医療ソーシャルワーカー がん相談支援センター看護師
6月16日	セカンド・オピニオンについて	患者支援室担当者
7月21日	抗がん剤の副作用 抗がん剤治療中のスキンケア、口腔ケア	がん専門薬剤師 皮膚排泄ケア認定看護師 集中ケア認定看護師
9月15日	抗がん剤治療中の食事の工夫 がんにともなう心の動きを知ろう	管理栄養士 臨床心理士
10月20日	放射線治療って、どんな治療？	診療放射線技師 がん放射線療法看護認定看護師
11月17日	がんの痛み止めについて 緩和ケア、緩和ケア病棟って何？	緩和ケアチーム薬剤師 緩和ケア認定看護師
12月15日	がん治療とリハビリテーション ～日常生活で活用できる運動とストレッチ～	理学療法士
1月19日	もしも、がんと言われたら －心がけておきたいこと－ がんにともなう心の動きを知ろう	がん相談支援センター看護師 臨床心理士
2月16日	がんと社会資源、医療費について 就労支援（神奈川県モデル事業）	医療ソーシャルワーカー がん相談支援センター看護師
3月16日	セカンド・オピニオンについて	患者支援室担当者

※　内容は変更になる場合があります。ご了承ください。

今後のイベント予定

【公開講座】
今春の公開講座はご要望の多かった『がん』をテーマにしています。
皆様の奮ってのご参加をお待ちしています。
日時：平成 28 年 5 月 21 日（土）13：30～
内容：第一講演「その症状、甲状腺は大丈夫？」中野　賢英（外科・助教）
　　第二講演「早く見つけよう！後悔しないために」
　　～乳がん検診のすすめ～　　西川　徹（外科・講師）

編集後記

今回は新年度特別号として、通常連載よりページ数を増やして作成しました。
患者さんより「病院だよりを楽しみにしています！」というお声を頂戴し、毎月発行を目指していきたいと思っております。
いろいろな情報をお伝えできるよう、広報委員一同取り組んで参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

広報委員会　委員　瓜生　優佳

北部病院だより　第 95 号（新年度特別 4・５月合併号）
平成２８年５月１日発行
発行責任者 世良田 和幸 (昭和大学横浜市北部病院長)
編集責任者　緒方　浩顕 (広報委員会 委員長)
発行　昭和大学横浜市北部病院
〒224-8503　横浜市都筑区茅ケ崎中央 35-1
電話 045-949-7000(代表)
URL：http://www.showa-u.ac.jp/SUHY/index.html
北部病院ホームページにて最新・過去の『病院だより』がご覧いただけます。